

科目ナンバリング		U-LAS03 10003 SB48							
授業科目名 <英訳>		外国文献研究（文・英） B-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Letters, English)B-E1			担当者所属 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		外国文献研究		使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	木2		配当学年	2回生以上	対象学生	文系向
[授業の概要・目的]									
当授業では、日本の環境史の入門書として初めて英語で編まれた、Handbook of Environmental History of Japan をテキストとして、半期の間におおむね全文を読むことを目標とする。本書は16章からなり、主として、近現代日本のさまざまな環境問題や環境史的なトピックについて、関わりの深い研究者が概説し、研究上の論点を提示するという構成をとる。環境問題、あるいは社会と環境の関係性について関心ある学生にとって、基本的な術語に慣れるとともに、研究動向を理解し、社会と環境を捉える枠組みを考える上で、本テキストはよい入門書になると期待している。目次はこちら↓ https://ja.mhmqjapandocuments.com/copy-of-reconsidering-postwar-japan-h 本テキストの執筆者の多くは日本人であるため、ネイティブイングリッシュを学ぶという点では、やや物足りない面があるかもしれない。しかし国際的な学術の世界の英語は、少なからず、セカンドランゲージとして英語を用いる研究者によって成り立っている。本授業では、環境問題や環境史の諸問題が、どのような英語によって表現されているか、またどのような研究上の文脈で検討されてきたかに留意して、読み進めていく。 環境史あるいは環境歴史学（Environmental History）は、学問分野の分類としては歴史学の一部ということができるが、そこには地理学、社会学、政治学、経済学、哲学、生態学など諸分野の研究者が活発に参入しており、すぐれて学際的なアリーナを形成している。本テキストの執筆者の多くは、アジア環境史学会（旧・東アジア環境史学会）の参加者であり、そこで提示されてきた研究成果や知的交流が、本テキストに反映されている。									
[到達目標]									
学術的な英語の語彙や様式、構成について学び、英語文献への理解を深めることを、第一の目標とする。また、テキストが扱う近現代日本の環境問題や環境史上の論点について学び、問題意識を養うことを、第二の目標とする。									
[授業計画と内容]									
半期の間で1冊の書籍を読み通すことを目標とするので、逐次訳ではなく、節や段落単位での要約を通じて、読み進めていく。そのため、受講生の担当箇所をあらかじめ割り振り、計画的に進めていく。 1回目：オリエンテーション 2回目：履修者の確定と3回目以降の割り当ての調整 3回目～14回：割り当てられた章（節）の内容について、レジメまたはスライドを準備して、要約しつつ論評する。また、発表内容をもとに議論を行う。									
						外国文献研究（文・英） B-E1(2)へ続く↓↓↓			

外国文献研究（文・英） B-E1(2)

15回目：フィードバック（方法は別途説明する）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

割り当てられた内容の発表（60%）と授業への参加（40%）を総合して、成績評価を行う。積極的に議論に参加することが望まれる。

[教科書]

FUJIHARA Tatsushi 『Handbook of Environmental History of Japan』（Japan Documents）ISBN:978-4-909286-14-7（コピーを配布する）

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://ja.mhmmjapandocuments.com/copy-of-reconsidering-postwar-japanes>(テキストの目次・執筆者（出版社・Japan Documents のサイト）)

<https://kdb.iimc.kyoto-u.ac.jp/profile/ja.1e2d6b0ea8140ba4.html>(京都大学教育研究活動データベース（授業担当者のページ）)

[授業外学修（予習・復習）等]

割り当てられた章（節）については、その内容を要約・論評するレジメを作成し、授業日の前日正午までにPandaに提出すること。

[その他（オフィスアワー等）]

履修定員を45名とし、履修人数制限を行う。

なお、履修希望者が人数制限を超過した場合は、以下の条件順で優先的に履修を認める。その上で、超過したところで抽選を実施し、履修を許可する。

1. 文学部の4回生（所属系は問わない。）
2. 文学部行動・環境文化学系の2・3回生
3. 上記系以外の文学部2・3回生
4. 文学部以外の学生

オフィスアワーを設定しているので、必要に応じて活用されたい。またメールによる質問や相談も歓迎する。

[主要授業科目（学部・学科名）]